

隅田川に映える橋のライトアップ

～水辺のにぎわいの創出～



水辺のにぎわいを創出する隅田川橋梁群のライトアップ



隅田川橋梁群のライトアップ

都内では、東京タワーや東京スカイツリー等の民間施設や国会議事堂、レインボーブリッジ等の公共施設で、ライトアップが行われており、夜景を楽しむ人々の人気スポットになっています。東京都は東京2020大会、さらに、大会後も引き続き多くの人々を惹きつける都市に成長していくために、夜間景観に磨きをかけ、東京の魅力さをさらに向上させる取り組みを進めています。

東京都が管理する隅田川に架かる橋梁のライトアップについては「2020年に向けた実行プラン(平成28年)」において、隅田川における恒常的な賑わいの創出を目的に白鬚橋から下流の都が管理する10橋の整備が位置づけられました。また、この10橋は「公共施設等のライトアップ基本方針(平成30年)」において、ライトアップを重点的かつ一体的に進める「隅田川・臨海部」エリアの主要な施設とされています。

この度、ライトアップを新設した6橋「築地大橋」「佃大橋」「蔵前橋」「厩橋」「駒形橋」「白鬚橋」、リニューアルした4橋「勝鬨橋」「永代橋」「清洲橋」「吾妻橋」、整備済みの2橋「中央大橋」「新大橋」の12の橋で隅田川の夜を美しく彩るライトアップを実施します。(台東区が管理する「桜橋」・東武スカイツリー線隅田川橋梁においてもライトアップが行われています)

◆ 隅田川の橋

江戸・東京の文化を育んできた隅田川には、関東大震災後の大正末期から昭和初期の間に架けられた「永代橋」「吾妻橋」や戦前に架けられた「勝鬨橋」などの歴史的に価値のある橋や平成26年に最新の技術で架けられた最新の「築地大橋」など、多種、多様な構造や色彩を持つ美しい橋が架けられています。橋の展覧会などと呼ばれ、人々の目を楽しませています。

◆ ライトアップデザイン

隅田川橋梁群の魅力は、

- ・『構造や色彩が多種多様で美しい』
- ・『歴史的な価値が高い』
- ・『橋梁技術として優れている』
- ・『地域特性(歴史、地形、利便性など)』

など、数多くあります。有識者を含む「隅田川橋梁群ライトアップ検討委員会」で、これらの魅力を引き出すライトアップの基本方針とコンセプトを設定しました。

基本方針：『橋そのものの構造美及び色彩を生かす』
デザインコンセプト：

『日本の美の継承と東京のダイナミズムによる
新たな時空の創造』

『日本の美の継承』には、隅田川流域で育まれてきた江戸文化の美意識を継承していくこと。

『東京のダイナミズム』には、隅田川周辺地域は、震災や戦災など大きな困難を乗り越えて、都市の発展を支え続け、将来に向けて未来を切り開くダイナミズム(内に秘めたエネルギーや力強さの意)を象徴しているという思いが込められています。

◆ ライトアップ手法

デザインコンセプトを具現化するためにLEDによる様々なライトアップ手法を採用しています。

『日本の美の継承』

⇒ [水面への彩][陰影(ぼかし)][和の色]

『東京のダイナミズム』

⇒ [構造美や繊細な部材を生かす]

[時の変化などを表現するカラー演出]

夜の隅田川を美しく彩る隅田川橋梁群のライトアップが完成しました。新たな夜間景観をお楽しみください。





9、10月平日



今世紀誕生の新しいランドマーク

「22世紀にも建設意思が伝わる橋」をデザインコンセプトとして架設された隅田川の新しいゲートです。

アーチを外側に傾斜させ、上横支材のない開放的で斬新なデザイン。また、歩道を緩やかに水辺側に張り出して歩行空間の快適性にも配慮しています。

隅田川の河口に架かる第一橋梁にふさわしい姿を求め、永代橋、勝鬨橋などの伝統的なアーチ形式を引き継ぎながらも、最新の技術と構造の美しさを詰め込んだ斬新で

開放感のあるデザインとなっています。首都東京・ウォーターフロントの新しいランドマークです。

【築地大橋の概要】

- 中央区築地～中央区勝どき（環状2号線）
- 構造形式：
鋼3径間連続中路式アーチ橋
- 架設：2014年（平成26年）
- 橋長：245.0m 幅員：32.3m～47.9m

💡 - ライトアップについて

隅田川の新しいゲートにふさわしい、大アーチを鮮やかなカラーで彩ります。ゆるやかにカーブする橋桁には、優しい白色の間接光が連なります。

カラーで照らされたアーチ部では、毎正時に、上から下へ、ゆっくりと白色に変化させる演出を行います。他の橋に比べて、より多彩な照明となっています。最先端の光と制御技術を用いて実現した、最新のライトアップです。



11、12月平日



5、6月祝日



7、8月週末（橋上より）

勝鬨橋 Kachidoki Bridge (国重要文化財)



夏平日



戦前の技術を象徴する跳開橋

月島一帯の埋立地の開発、東京港の発展を目的として計画され、東京市により建設されました。

日露戦争の戦勝を記念して、明治38年に設置された渡船場「かちどきの渡し」が橋名の由来です。

隅田川を航行する船舶と晴海通りの交通を両立させるために橋の中央部がハの字型に開く跳開橋として建設されました。最多で、1日5回の開閉を行っていましたが、船舶の減少と道路交通の著しい増加のため1970年(昭和45年)に開閉を中止しました。

2007年(平成19年)には「我が国で最大の可動支間を有する大規模かつ技術的完成度の高い構造物」であることから、国の重要文化財に指定されています。

【勝鬨橋の概要】

- 中央区築地～中央区勝どき(晴海通り)
- 構造形式：
中央径間) 鋼シカゴ型双葉式跳開橋
側径間) 鋼ソリッドリブ・タイドアーチ橋
- 竣工：1940年(昭和15年)
- 橋長：246.0m 幅員：26.6m

ライトアップについて

歴史と知名度を誇る勝鬨橋の格調高い美しい姿を白色光のグラデーションによる光で表現しました。

跳開橋としての面影を伝えるために、毎正時に、中央の跳開部の光が、当時と同じ速度でゆっくりと左右に動きます。橋脚の操作室の室内には灯りがとまり、中では人が操作しているかのような印象を醸し出します。当時を光で甦らせる趣向です。



春秋祝日



橋脚の操作室



歩道空間



夏平日



高度経済成長期に架けられたモダンデザイン

戦後初めて隅田川に架けられた、技術の粋を集めた桁橋です。

1964年（昭和39年）の東京オリンピック開催に備えた関連道路の一部として建設されました。佃大橋の完成により、320年以上続いていた渡船場、「佃の渡し」が消えていくことになりました。

個性的な橋が多い隅田川の中で、シンプルなデザインとなっていますが、鋼床版箱桁という橋梁形式としては、国内で最大級のものでした。また、桁の架設工事は、工場で組立てた橋桁を大型クレー

ン船を用いて一括架設する、事例の少ない最先端技術により行われ、後の橋桁の大ブロック架設工法の先駆けとなりました。

【佃大橋の概要】

- 中央区明石町～中央区佃（都道新富晴海線）
- 構造形式：3径間連続鋼床版箱桁橋
- 竣工：1964年（昭和39年）
- 橋長：220.0m 幅員：25.4m

💡 - ライトアップについて

隅田川の橋梁の中では、唯一の箱桁の橋です。ダイナミックな緑色の桁を強調するために、うぐいす色の間接光で、柔らかく濃淡をつけて照らし出しています。

欄干の下方には、多様な光色の演出が出来るライン照明を設置。他の橋梁と同様に、年間を通して平日・週末・祝日、季節ごとに色彩を変える演出を行います。



夏週末



夏祝日



右岸下流側からのぞむ



夏平日



水面に映える「帝都東京の門」

関東大震災の復興事業で内務省復興局によりに架け替えられた隅田川で最も古い橋です。

創架は1698年(元禄11年)、江戸時代までに隅田川に架けられた5橋のうち4番目に架けられました。数回の架け替えの後、現在の橋が架設されました。

永代橋は、清洲橋とともに英国海軍が開発した高強度鋼材やニューマチックケーソン基礎などの最先端技術によって、国内で初めて支間長が100mを超えるアーチ橋として竣工しました。

当時は隅田川の河口に架かる第一橋梁であったことから「帝都東京の門」と呼ばれ震災復興のシンボルとなりました。

2007年(平成19年)には「力学的合理性に基づく近代的橋梁美を実現した」ことから、国の重要文化財に指定されています。

【永代橋の概要】

- 中央区新川～江東区佐賀(永代通り)
- 構造形式：鋼ソリッドリブ・バランスド・タイドアーチ橋
- 竣工：1926年(大正15年)
- 橋長：184.7m 幅員：25.6m

- ライトアップについて

重量感に溢れる雄大なアーチと両サイドに水平に伸びる桁で構成される橋の特徴を生かしたライトアップです。塗装色と同じ青色系の間接照明で中央のアーチと両サイドの桁を照らし出しています。垂直方向の吊り材は、白色系の投光照明で下から上に照らし上げて陰影をつけました。大アーチを強調するとともに橋梁の構造美を生かした照明デザインです。



夏週末



冬祝日



右岸上流側からのぞむ



夏平日



優美なフォルムが際立つ「震災復興の華」

関東大震災の復興事業で内務省復興局により新たに建設された橋です。ライン川に架かっていたケルンの吊橋をモデルとして、技術の粋を集めて建設された優美な曲線を描く我が国唯一の自碇式チェーン吊橋です。その美しさから「震災復興事業の華」と謳われ永代橋とともに震災復興のシンボルとなりました。

架橋当時、永代橋と清洲橋は、隣り合っていたためペアとして計画されました。上向きのアーチ曲線で重量感を持つ永代橋に対して

下向きの吊り形式を持つ繊細な清洲橋。対比をなしたすてきなデザインとなっています。

2007年(平成19年)には「力学的合理性に基づく近代的橋梁美を実現した」ことから、国の重要文化財に指定されています。

【清洲橋の概要】

- 中央区日本橋中洲～江東区清澄(清洲橋通り)
- 構造形式：自碇式チェーン吊橋
- 竣工：1928年(昭和3年)
- 橋長：186.2m 幅員：26.1m

💡 - ライトアップについて

我が国唯一の自碇式チェーン吊橋という、貴重な橋の美しさを生かしたライトアップです。

チェーンケーブルの上部は白色光で、下部は温白色と、光の色味に変化をつけて主塔の高さを強調しています。

また、チェーンケーブルと調和するように曲線をつかってデザインされた主塔の門構えを柔らかな光で陰影をつけながら優美な姿を浮かび上がらせました。



夏週末



夏祝日



主塔の門構え



夏平日



米蔵の名残を残す稲穂色

関東大震災の復興事業で内務省復興局により新たに建設された3連の上路式アーチ（路面がアーチの上側にある）です。

江戸時代、この周辺に幕府の米蔵があったことから、この付近が蔵前と呼ばれ、それが橋名の由来になっています。橋の色は米蔵の稲穂をイメージした温かみのある黄色系としています。

橋脚の足元には、水切りのために半球体の石張りを設け、橋脚上部にはバルコニーが設置されています。平成の初めには、橋の西詰

に蔵前国技館があったことから、欄干に力士などのレリーフを設置しています。2018年（平成30年）には老朽化した橋灯を建設当時のデザインに復元する工事を実施しました。

〔蔵前橋の概要〕

- 台東区蔵前～墨田区横網（蔵前橋通り）
- 構造形式：
上路式 鋼ソリッドリブ・2ヒンジ
アーチ橋 3連
- 竣工：1927年（昭和2年）
- 橋長：173.4m 幅員：23.0m

💡 - ライトアップについて

稲穂をイメージした薄黄色に採色された3つのアーチを強調しながらもアーチの上にある支柱、斜材、横構などの繊細な構造部材を橋面下のアーチの下方から上方に照らせば、立体的に浮かび上がらせました。

それらの反射光が水面を照らして豪華な金色の漣（さざなみ）となり、幾重にも映り込みます。江戸時代の賑わいを連想させる夜景といえましょう。



夏週末



春秋祝日



桁下空間



夏平日



3連のアーチが映える豊かな水面

関東大震災の復興事業で東京市により架け替えられた3連の下路式アーチ（路面がアーチの下側にある）です。橋名は、橋西岸にあった江戸幕府の「御厩河岸」に由来しています。ここは蔵前にあった米蔵のために使われていた馬たちの厩舎があった場所です。

創架は、1874年（明治7年）に架けられた木製の橋でした。1893年（明治26年）に鉄橋に架け替えられましたが、関東大震災により木造の床が焼失するなどの被害を受けたため、現在の橋に

架け替えられました。

波打つような曲線を持つ連続したアーチがリズムカルな軽快さを感じさせてくれます。橋名にちなんで、鋼鉄製の親柱の頂部には馬をデザインしたステンドグラスが設置されています。

【厩橋の概要】

- 台東区蔵前～墨田区本所（春日通り）
- 構造形式：鋼ソリッドリブ・タイドアーチ橋3連
- 竣工：1929年（昭和4年）
- 橋長：151.4m 幅員：24.5m

💡 - ライトアップについて

隅田川では唯一の下路式アーチ3連の橋です。

緑色のアーチを白色系のライン照明で、きめ細かく照らすことにより、3連の連続性を高め、アーチを薄緑色に輝かせています。橋の構造美をよりダイナミックに際立たせたライトアップです。

近場から見えるアーチ部材のリベット（鋼板と鋼板を止める釘）は、光を浴びて美しくたたずみ歴史を感じさせてくれます。



春秋祝日



アーチリブのリベット



橋脚周辺



夏平日



浮かび上がるバランスのとれたシルエット

関東大震災の復興事業で内務省復興局により新たに建設されました。橋名は橋の西詰にある駒形堂に由来しています。

周辺地盤の高さの制約から両サイドのアーチを小さくする必要があったため、小さな上路式アーチを両サイドに、大きな中路式アーチを中央に配置しています。両サイドの小さなアーチの曲線を緩やかにすることによって、橋脚に働く水平力のバランスを取っています。上下、大小に変化するアーチがバランスよく構成されたシル

エットの美しい橋です。半円形の水切りと歩道のバルコニーを兼ねた橋脚も優雅で歴史を感じさせます。

【駒形橋の概要】

- 台東区駒形～墨田区東駒形（浅草通り）
- 構造形式：
 - 中央径間）中路式 鋼ソリッドリブ・2ヒンジアーチ橋
 - 側径間）上路式 鋼ソリッドリブ・2ヒンジアーチ橋
- 竣工：1927年（昭和2年）
- 橋長：146.3m 幅員：25.8m

💡 - ライトアップについて

変化に富むアーチ橋。垂直方向の吊り材は、白色光で照らし上げました。アーチ部分は、白色系のライン照明できめ細かく照らし、大アーチと小アーチの連続性を強調しています。

全体にバランスよく構成された、変化の美しいシルエットを際立たせたライトアップです。水面の映り込みは変化に富み、夕暮れから夜にかけて、最も美しい姿を現します。



夏週末



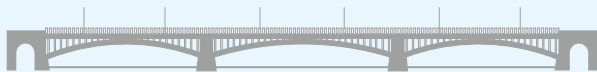
冬祝日



歩道空間



夏平日



鮮やかな朱色が映える浅草名物

関東大震災の復興事業で東京市により架け替えられた3連の上路式アーチです。平成の初めには、浅草周辺の色調と調和を図るために、赤色系に塗り替えられました。今ではすっかり馴染み浅草のランドマークとなっています。

創架は1774年(安永7年)、江戸時代に隅田川に架けられた5つの橋の最後に架けられました。橋名は「大川橋」と呼ばれていましたが、明治の時代に入り「吾妻橋」と改名されました。名前のいわれは、江戸市街地の東に位置す

ることや吾妻神社へ続く道であったからといわれています。

【吾妻橋の概要】

- 台東区雷門～墨田区吾妻橋 (都道上野野島線)
- 構造形式：鋼ソリッドリブ・2ヒンジアーチ橋3連
- 竣工：1930年(昭和5年)
- 橋長：150.1m 幅員：23.4m

💡 - ライトアップについて

東京の観光名所浅草で、古くから親しまれている橋です。独特な朱色の美しいこの橋の照明は、優美な3つのアーチと橋脚のコントラストの調和を重視しています。

欄干外側のカラー照明は、乳白板への柔らかな間接光で、和の雰囲気添えています。また、水面は浅草エリアらしく反射した光で朱色に彩られます。



夏週末



夏祝日



歩道空間



夏平日



川面に写す伸びやかな白色光

創架は1914年(大正3年)で、地元住民による「白鬚株式会社」により木造の有料橋として架橋されました。1925年(大正14年)に東京府に買い取られ、東京府の都市計画事業の一環として架橋されたのが現在の白鬚橋です。橋名は左岸側にある向島七福神のひとつの白鬚神社に由来しています。

大きなアーチ部分をトラス構造とするための多くの斜材が配置されており、重厚でありながらも繊細さを感じさせるシルエットになっています。遠方から眺めると

白い恐竜をイメージする迫力のある名橋です。

【白鬚橋の概要】

- 台東区橋場～墨田区堤通(明治通り)
- 構造形式：
鋼ブレースドリブ・バランスド・
タイドアーチ橋
- 竣工：1931年(昭和6年)
- 橋長：168.8m 幅員：22.8m

💡 - ライトアップについて

ダブルのアーチとその間に配置されている三角形のトラス材が個性的なフォルムをつくりだしています。

注意深く選ばれた白色光が、繊細なトラス材や鉛直方向の吊り材に陰影をつけながら、ダブルの白いアーチを引き立たせています。繊細でありながらも重厚な構造美を浮き上がらせるライトアップとなっています。



春秋祝日



二重アーチ



歩道空間

光の演出

※演出の内容は変更となることがあります。
東京都建設局のホームページをご確認ください。

◆ 欄干カラー照明

今回新たに整備された10橋のライトアップでは、通常のライトアップとしての照明に加えて、10橋でのまとまった演出を行えるように、欄干の川側全体をカラーに染める欄干カラー照明が組み込まれています。

通常のライトアップは、各橋の美しい形や特徴的な色を際立たせるため、橋それぞれの特徴を生かした独立したイメージの照明としています。一方、隅田川橋梁群10橋では、歴史的な橋梁に特有の重厚な欄干を統一されたイメージに光らせる欄干カラー照明によって、橋梁群としてのより豊かな照明演出を行おうというものです。(近代的な築地大橋では、シンプルな欄干のかわりにアーチをカラーに染めて、他橋と演出イメージをそろえています)

欄干カラー照明の演出プログラムは、大きく年間オートプログラムとスペシャルプログラムによって構成されます。

◆ 年間オートプログラム

週末(金土日の晩)や祝日は雰囲気盛り上げるような光色で染まり、また1年の中で移ろう時を四季のおおのに合った季節の色で演出するプログラムとなっています。

平日/週末/祝日と春/夏/秋/冬の組み合わせによって光色を設定しています。平日と祝日は、欄干カラー照明全体が単色の演出ですが、週末は、横に長いライン状の光であることを利用して、中央部と両側部に3分割して光色を変えた演出となっており、一覧の中の色分けはそのことを表しています。

大晦日から元旦にかけては、年が明けると同時に、10橋の欄干カラー照明を紅色で揃えて、新たな年明けを祝うプログラムとしています。

年間オートプログラムの光色一覧(吾妻橋の欄干カラー照明の例)

	春(3~5月)	夏(6~8月)	秋(9~11月)	冬(12~2月)
平日	白色	白色(涼しげな)	白色	白色(暖かみのある)
週末	白色 +P/桃	白色(涼しげな) +R/紅	白色 +P/桃	白色(暖かみのある) +V/江戸紫
祝日	P/桃	R/紅	P/桃	V/江戸紫

週末/祝日で用いられる季節の色は、10橋おのおので変えてあり、季節のイメージに合うように、各橋の塗装色に映えるように、そして隣り合った橋で似たような色にならず10橋全体としてのバランスがよいように、などの配慮がなされています。(隅田川の河口に位置し、10橋の顔ともいえる築地大橋では、2カ月ごとにかわる光色で、よりきめ細かい時の移ろいを表しています)

また、毎日の消灯時には、橋の各部分ごとに順次消えていくなどの演出もプログラムされています。

季節の色一覧

橋名	橋梁仕上げ色		季節の色(略号/和名)											
	アーチ	欄干	春			夏			秋			冬		
			3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
白鬚橋	白系	グレー(緑系)	G/緑			GBB/空			G/緑			YG/若竹		
吾妻橋	赤系	赤茶	P/桃			R/紅			P/桃			V/江戸紫		
駒形橋	青系	ライトグレー(青系)	VB/青紫			B/藍			VB/青紫			OR/茜		
厩橋	緑系	ライトグレー(緑系)	GB/浅葱			G/緑			GB/浅葱			GBB/空		
蔵前橋	黄系	ライトグレー(黄系)	YG/若竹			Y/山吹色			YG/若竹			O/橙		
清洲橋	青紫系	青紫系	V/江戸紫			VB/青紫			V/江戸紫			P/桃		
永代橋	淡青系	ライトグレー(青系)	G/緑			GBB/空			G/緑			GB/浅葱		
佃大橋	淡緑系	シルバー(艶消し)	O/橙			R/紅			O/橙			Y/山吹色		
勝鬨橋	白系	ライトグレー	B/藍			G/緑			B/藍			V/江戸紫		
築地大橋 (アーチ欄干の光色)	白系	ダークグレー	G/グリーン	BG/ブルーグリーン	B/ブルー	V/バイオレット	R/レッド	Y/イエロー						

◆ スペシャルプログラム

社会運動への支援・賛同を示すアウェアネスカラーに対応した演出のプログラムを用意しています。



冬平日(吾妻橋)



冬週末(吾妻橋)



冬祝日(吾妻橋)

ほかにもライトアップが美しい隅田川の橋梁

新大橋 関東大震災の「お助け橋」

隅田川には江戸時代までに、「千住大橋」をはじめとして「両国橋」「新大橋」「永代橋」「吾妻橋」の順に5つの橋が架けられました。1693年(元禄6年)創架の新大橋は、当時、「大橋」と呼ばれていた「両国橋」に次いで架けられたことから、「新大橋」と命名されました。1912年(明治45年)には鋼鉄製のトラス橋に架替えられています。

1923年(大正12年)の関東大震災では、ほとんど被害がなく、火災から逃げる多くの市民を助けたことから「お助け橋」と呼ばれました。1976年(昭和51年)に、現在の鋼斜張橋に架け替えられました。

- 中央区日本橋浜町～江東区新大橋(新大橋通り)
- 構造形式：2径間連続鋼斜張橋
- 架設：1977年(昭和52年)
- 橋長：170.0m 幅員 24.5m



中央大橋 「兜」イメージした特徴的なデザイン

平成のはじめに、中央区佃二丁目地内にウォーターフロントの高層マンションの先駆けとなる「大川端リバーシティー 21」が建設され、隅田川には、未来的な都市景観にマッチする斜張橋形式の中央大橋が架けられました。

斜張橋の主塔は、かつてこの地が、兜(かぶと)島とも呼ばれていたことから兜の飾りをイメージしたデザインとしています。建設当時、隅田川とセーヌ川が友好河川となったことからパリ市から寄贈されたオシップ・ザツソン作の「メッセンジャー」というブロンズ像が橋脚に設置されています。

- 中央区新川～中央区佃(特例都道上野月島線)
- 構造形式：2径間連続鋼斜張橋
- 架設：1993年(平成5年)
- 橋長：210.7m 幅員 25.0m



他の橋梁管理者が実施しているライアアップ

桜橋 <台東区・墨田区管理>

隅田川唯一の人道橋



- 台東区今戸～墨田区向島
- 構造形式：3径間連続X形曲線箱桁橋
- 竣工：1985年(昭和60年)
- 橋長：169.5m 幅員 12.0m

東武スカイツリーライン隅田川橋梁 <東武鉄道株式会社>

昭和の初め 東武鉄道を浅草につないだ橋梁



- 台東区花川戸～墨田区向島
- 構造形式：3径間鋼ゲルバーワーレントラス橋
- 竣工：1931年(昭和6年)
- 橋長：164.0m 幅員 15.0m

隅田川橋梁へのアクセスマップ





隅田川に映える橋のライトアップ ～水辺のにぎわいの創出～
登録番号 31 (93) 号
発行 東京都建設局 (令和2年3月) 03-5320-5295
印刷 錦明印刷株式会社

